

令和 7 年 度

事業計画書

令和 7 年 7 月

京都府織物・機械金属振興センター

目 次

I	当センターの概要	1
II	令和7年度の基本指針	2
1	強みを活かした競争力のあるものづくり（技術支援の強化）	2
2	人材確保・人材育成（技術者の養成）	2
3	技術開発の促進（新技術研究開発）	2
4	情報収集と情報発信（広報活動の強化）	2
5	産地組合、教育機関、団体との連携、支援等	2
6	丹後・知恵のものづくりパークによる経営・技術の総合支援	2
7	創立120周年記念事業の実施	2
III	令和7年度事業計画	3
1	技術支援の強化	4
(1)	技術相談対応、現場支援	
(2)	巡回支援	
(3)	工作機械巡回精度測定	
(4)	依頼試験	
(5)	機器貸付	
(6)	京都府伝統産業生産基盤支援事業費補助金	
2	人材確保・人材育成（技術者の養成）	5
(1)	織物関係人材育成事業	
(2)	機械金属関係人材育成事業	
(3)	化学・食品関係人材育成事業	
(4)	将来を担う人材の育成と確保	
	令和7年度人材育成研修・セミナー一覧	6
(1)	織物関係人材育成事業	
(2)	機械金属関係人材育成事業	
(3)	化学・食品関係人材育成事業	
	令和7年度人材育成研修・セミナー開催スケジュール	9
3	技術開発の促進	11
(1)	新技術の研究開発	
(2)	研究開発企業や大学との共同研究	
	令和7年度新技術研究開発所内研究・共同研究	12
(1)	所内研究	
(2)	共同研究	

4	情報収集と情報発信（広報活動の強化）	13
(1)	地域及び企業の情報収集と情報提供	
(2)	デザイン情報の提供	
(3)	研究成果の資料配布・情報発信	
(4)	SNS、メールマガジン及びホームページ等での情報発信	
(5)	情報や資料の収集	
(6)	メディアへの情報提供	
5	産地組合、教育機関、団体との連携、支援等	14
(1)	丹後織物工業組合との連携、支援	
(2)	丹後機械工業協同組合との連携、支援	
(3)	産学公の連携	
(4)	公設試験研究機関との広域連携支援	
(5)	市町、商工会等との連携、支援	
(6)	関係団体との連携、支援	
	令和7年度研究会・協議会・プロジェクト・団体一覧	15
6	丹後・知恵のものづくりパークによる経営・技術の総合支援	16
7	創立120周年記念事業の実施	16
(1)	創立120周年記念シンポジウムの開催	
(2)	未来へ産業と技術をつなぐ「子ども体験教室」の実施	
(3)	「120年の歩み～オリモノ・キカイキンゾク・ショク カガク展～(仮称)」 の設置	
	沿革	17
	所在地及び施設等の概要	18

【 I 当センターの概要】

1 組織図・業務内容

所 長

副 所 長

企画連携課

企画総務グループ ○予算 ○人事 ○庶務 ○庁舎管理 ○事業の企画・調整
○研究調整・管理 ○広報 ○補助金 ○産学公連携の推進

連携支援グループ ●化学・食品分野における相談、支援、研究
●化学・食品関連事業の企画・調整
●人材育成事業
●化学試験、材料分析、加工支援等
●食品分析

技術支援課

織物グループ ●織物分野における相談、支援、研究
●織物事業の企画・調整
●人材育成事業

機械金属グループ ●燃糸加工、新規織物開発技術
●糸及び織物に関する物性評価
●機械金属分野における相談、支援、研究
●機械金属事業の企画・調整
●人材育成事業
●機械設計、造形、精密加工、精密計測
●材料加工、材料に関する機能評価

2 人員構成

	人 数	事 務	技 術	技能労務
所 長	1	1		
副 所 長	1	1		
企画連携課	8	3	5	
企画総務グループ		(3)	(1)	
連携支援グループ			(4)	
技術支援課長	1		1	
技術支援課	11		10	1
織物グループ			(6)	(1)
機械金属グループ			(4)	
計	22	5	16	1

※ 会計年度任用職員除く（令和7年4月1日現在）

【Ⅱ 令和7年度の基本指針】

2022年12月に改定された京都府総合計画では、「未来を拓く京都産業の実現」をビジョンの一つとして掲げ、産業創造リーディングゾーン「丹後テキスタイル産業の集積拠点」を目指し、「シルクテキスタイル産業」として世界最高レベルのシルクと染めの技術を活用したテキスタイル産地の形成に、産業・物流広域連携プロジェクトや京都府北部地域連携都市圏広域連携プロジェクトとして取り組んでいる。また、丹後地域振興計画では、基本施策として「地域が誇りを持てる活力ある産業づくり」や「地域を支える人材の確保」を掲げ、「世界中から人を惹きつけ、注目される産地づくり」、「次世代への技術継承と市場ニーズに合った商品開発」、「中小企業の新分野進出支援とAI・IoT技術等を活用した支援」によるものづくり産業等地域産業の振興をはじめ、地域企業等と連携した人材の確保・育成に取り組んでいる。

当センターでは、京都府総合計画を踏まえ、「6つの基本指針」を柱とし、総合産地化・高付加価値化に向けた新技術・新商品開発や新分野への進出、新産業の創出を目指した取組など、京都府北部地域のものづくり産業を(公財)京都産業21北部支援センターと一体となって支援し、総合的な活性化対策を推進する。

1 強みを活かした競争力のあるものづくり（技術支援の強化）

- 技術相談、依頼試験及び試作開発など技術支援の強化

2 人材確保・人材育成（技術者の養成）

- 地域や企業のニーズを踏まえた人材育成研修の実施
- 団体、高校等との連携協力

3 技術開発の促進（新技術研究開発）

- 企業ニーズ、地域ニーズに応じた技術開発の取組
- 企業や大学等との共同研究

4 情報収集と情報発信（広報活動の強化）

- 企業等への積極的な訪問による情報収集と情報提供
- SNS、メールマガジン及びホームページを活用したタイムリーな情報発信
- メディアへの積極的な情報提供

5 産地組合、教育機関、団体との連携、支援等

- 丹後織物工業組合、丹後機械工業協同組合、丹後地域地場産業振興センターとの連携、支援
- 教育機関をはじめ様々な団体・機関との見学・実習受入等の連携、支援
- 地域企業の新任者に向けた短期集中型の基礎研修による人材育成の支援

6 丹後・知恵のものづくりパークによる経営・技術の総合支援

- (公財)京都産業21北部支援センターと連携した経営・技術の一体的な支援の推進

7 創立120周年記念事業の実施

【Ⅲ 令和7年度事業計画】

当センターでは、地域産業の持続的な発展に貢献することを目的に、6つの基本指針である「技術支援の強化」、「技術者の養成」、「新技術研究開発」、「広報活動の強化」を業務の柱として、中小企業者等の技術支援や人材育成、新技術開発に取り組むとともに、「産地組合等との連携・支援」、「丹後・知恵のものづくりパークによる経営・技術の総合支援」を通じて地域に根差した公設試験研究機関として事業計画を策定する。

また、令和7年度から新たに数値目標を設定し、事業進捗を可視化することで、事業管理や事業分析など、PDCAによる継続的な事業改善を目指す。

なお、令和7年度は、当センター創立120周年の節目の年でもあり、丹後地域の歴史文化を継承し、地域とともに未来を見据える「創立120周年記念事業」を実施する。

【令和7年度数値目標】

項 目	分 野	目標値
技術相談・指導件数	合計	5,270件
	織物	3,700件
	機械金属	700件
	連携支援	870件
機器貸付件数	合計	1,950件
	織物	800件
	機械金属	1,100件
	連携支援	50件
依頼試験件数	合計	3,030件
	織物	2,800件
	機械金属	30件
	連携支援	200件
企業訪問件数	合計	320件
	織物	170件
	機械金属	80件
	連携支援	70件
研修会・セミナー参加人数	合計	950人
	織物	500人
	機械金属	400人
	連携支援	50人
SNSリーチ数	合計	14,000リーチ
	Facebook	11,800リーチ
	Instagram	2,200リーチ

(注) リーチ数：投稿を見たユーザーの数
企業訪問件数及び研修会・セミナー参加人数は延べ数

1 技術支援の強化

(1) 技術相談対応、現場支援

織物の品質向上や生産技術の高度化、新用途織物の開発、染色加工等生産加工の多様化技術、織物製造工程、精練・染色加工工程等全般にわたる技術的問題について相談対応と現場支援を行う。

機械加工部品の加工精度、金属材料の物性等に関する技術的問題についての相談対応や製造物の不具合対応等の技術的課題解決の支援を行うとともに、新分野への試作・開発に関する相談対応や情報提供等の支援を行う。

シルクや食材を生かして丹後の地域産業を強化するために、化学・食品についての専門的情報や分析機器を使って、地域企業の研究開発や品質管理について相談に応じ、また、支援を行う。

(2) 巡回支援

丹後地域の織物業・機械金属業等の企業が生産現場の課題に取り組み、技術改善や技術の向上を図るため、中小企業特別技術指導員及び学界・業界の専門家並びに織物・機械金属振興センター職員が連携し、企業の生産現場を巡回し、技術支援を行う

(3) 工作機械巡回精度測定

工作機械の加工精度の維持・管理は、製品の品質を保つ上で重要であり企業の技術的課題にも含まれることから、機械の精度を確認する手段として企業からの依頼により測定機の貸付及び操作指導を行うことで機械の精度管理を支援する。

(4) 依頼試験

企業等の依頼に応じて、織物、機械金属及び化学・食品に関する試験を実施する。

(5) 機器貸付

企業における品質管理や新製品開発を支援するため、機器を貸し付け、職員の操作補助のもと企業自らが機器を直接操作して、試験・分析・測定を行う。

また、機器貸付の際に必要な機器操作についても個別操作講習等利用企業に向けた取り組みを行う。

(6) 京都府伝統産業生産基盤支援事業費補助金

伝統と文化のものづくり産業の生産基盤を支えるため、生産設備の新設、増設、更新又は改修及び道具類の購入を支援する。

2 人材確保・人材育成（技術者の養成）

(1) 織物関係人材育成事業

丹後地域の基幹産業である織物製造や関連工程に関わる人材に対して、産地の生産体制を維持することを目的に、生産技術や新技術を習得する「ひとづくり」や「ものづくり」の研修を実施する。

- ア 織物基礎
- イ 製織準備
- ウ 製織
- エ 織物組織と紋織技術
- オ 織機調整
- カ 現場実践
- キ 現地セミナー
- ク AIとデジタル捺染
- ケ 縫製
- コ ものづくり&機器活用

(2) 機械金属関係人材育成事業

京都府北部地域のものづくり産業の一層の成長と次世代の産業振興を進めるため、(公財)京都産業21 北部支援センターと連携し、地域の企業ニーズに即したものづくり技術者の育成と技能の高度化等各種技術研修を実施する。また、一部オンライン配信も実施する。

- ア 設計技術
- イ 機械加工
- ウ 技術セミナー
- エ IT・IoT 技術
- オ 計測技術

(3) 化学・食品関係人材育成事業

化学及び食品について、基礎的な知識及び技術を学ぶ機会、また、新しい法規制、技術及び業界情勢に関する情報を提供し、化学等の産業において課題解決を推進できる人材の育成を図る。

- ア 化学人材育成研修
- イ 食品品質向上セミナー

(4) 将来を担う人材の育成と確保

高校や大学等と連携し、将来を担う人材確保のためインターンシップ受入や高校の実習授業等の支援を行う。

「TANGO 子ども未来プロジェクト推進協議会」が将来の担い手の育成を目的として実施する小中学生等を対象とした出前講座などに関係団体等と連携して取り組む。

【事業詳細】

- ☞ 令和7年度人材育成研修・セミナー一覧（6～8ページ）
- ☞ 令和7年度人材育成研修・セミナー開催スケジュール（9～10ページ）

令和7年度人材育成研修・セミナー一覧

(1) 織物関係人材育成事業

分野	名称	内容	担当課・グループ
1	織物基礎 【対面方式】	織物の製造に必要な知識について、実際に顕微鏡、試験機、撚糸機、織機等を利用して学びます。	技術支援課 織物グループ
2	織物基礎 【オンライン方式】	織物の製造に必要な知識について、オンラインで学びます。	技術支援課 織物グループ
3	製織準備 【整経】	整経に必要な知識や、部分整経機を使用した整経の作業を学びます。	技術支援課 織物グループ
4	製織準備 【たて継ぎ（手つなぎ）】	手つなぎによる、たて継ぎの作業を学びます。	技術支援課 織物グループ
5	製織準備 【たて継ぎ（機械つなぎ）】	たて継ぎ機を利用した、たて継ぎの作業を学びます。	技術支援課 織物グループ
6	製織 【基礎】	製織に従事され始めた方を対象にマンツーマンで、糸の扱い方、織機の操作、織り合わせ等を学びます。	技術支援課 織物グループ
7	製織 【応用】	織機やジャカードの日頃の調整、作業環境の整備等について、質疑応答形式で学びます。	技術支援課 織物グループ
8	織物組織と紋織技術	織物組織と機拵えの関係を明確にし、紋データ作成の技術を学びます。	技術支援課 織物グループ
9	織機調整 【シャトル基礎】	シャトル織機の調整方法を学びます。	技術支援課 織物グループ
10	織機調整 【レピア基礎】	レピア織機の調整方法を学びます。	技術支援課 織物グループ
11	現場実践研修	講師が企業の現場に赴き、研修で学んだ内容を企業の現場で実践する手法を学びます。	技術支援課 織物グループ
12	現地セミナー	商品開発、販路開拓、生産基盤の維持・発展に向けて、先進的に取り組んでいる企業等を見学します。	技術支援課 織物グループ
13	新商品開発 【AIとデジタル捺染】	AIでプリント柄を生成し、デジタル捺染をします。また、その販売促進ツールのデザイン手法を学びます。	技術支援課 織物グループ
14	新商品開発 【縫製】	ファッション製品を試作縫製する知識や手法を学びます。	技術支援課 織物グループ
15	新商品開発 【ものづくり&機器活用】	センターが保有する機器を利用して、新商品を開発する手法を学びます。	技術支援課 織物グループ

(2) 機械金属関係人材育成事業

分野	名称	内容	担当課・グループ
16	機械製図基礎講座 (LEVEL 00)	ものづくり全般に必要な図面を読む、描くために必要な知識を学びます。 (はじめて製図を学ぶ方対象)	技術支援課 機械金属グループ
17	機械製図講習会 (LEVEL 0→1)	ものづくり全般に必要な図面を読む、描くために必要な知識を学びます。 (基本的な製図知識を有する方対象)	技術支援課 機械金属グループ
18	機械製図講習会 (LEVEL 2)	ものづくり全般に必要な図面を読む、描くために必要な知識を学びます。 (製図が読める方・製図に携わる方対象)	技術支援課 機械金属グループ
19	3次元CAD基礎	初心者を対象にパソコンを用いた3次元CADの操作解説と演習を行います。	技術支援課 機械金属グループ
20	3次元CAM基礎	初心者を対象にパソコンを用いた3次元CAMの操作解説と演習を行います。	技術支援課 機械金属グループ
21	NCプログラム基礎	NC旋盤の操作を目的としたプログラムの解説と実習を行います。	技術支援課 機械金属グループ
22	NC旋盤基礎	NC旋盤の操作を目的とした機器操作等の説明と実習を行います。	技術支援課 機械金属グループ
23	NC旋盤講習会 (基礎、実習)	NC旋盤の操作を目的とした機器操作等の説明と実習を行います。	技術支援課 機械金属グループ
24	NCフライス基礎	NCフライスの操作を目的とした機器操作等の説明と実習を行います。	技術支援課 機械金属グループ
25	3軸マシニングセンタ講習会 (基礎、実習)	座学及び演習を用いて工作機械の基礎技術の習得を図ります。	技術支援課 機械金属グループ
26	安全衛生	安全衛生に関する基礎知識を学びます。	技術支援課 機械金属グループ
27	VRを活用した危険体験学習	VRを活用した危険体験・機器操作について学びます。	技術支援課 機械金属グループ
28	金属材料基礎	金属材料に関する基礎知識を学びます。	技術支援課 機械金属グループ
29	新分野進出支援技術 セミナーⅠ	宇宙関連の加工に関する技術や受注にまつわる要件等を学びます。(予定)	技術支援課 機械金属グループ
30	新分野進出支援技術 セミナーⅡ	先進企業による宇宙関連の受注に関する現状解説及びマッチング情報を提供します。(予定)	技術支援課 機械金属グループ
31	IoT技術基礎	IoT技術に関する基礎知識の習得を図ります。	技術支援課 機械金属グループ
32	Excelマクロ・VBA活用 セミナー(入門)	社内業務の改善を目的とした業務システムの開発について学びます。	技術支援課 機械金属グループ
33	Excelマクロ・VBA活用 セミナー(応用)	生産システムに関する設計・開発支援の基礎知識について学びます。	技術支援課 機械金属グループ

34	計測技術	測定工具基礎講座	機械加工に使用する工具の使用方法等の解説と実習を行います。	技術支援課 機械金属グループ
35		表面粗さ・輪郭形状測定機講習会（座学・実習）	表面粗さ・輪郭形状測定の基礎的事項に関する講義と操作実習を行い測定技術の基本を学びます。	技術支援課 機械金属グループ
36		CNC三次元測定機講習会（座学・実習）	三次元測定機による精密測定の基礎的事項の解説と操作実習を行い精密測定技術の基本を学びます。	技術支援課 機械金属グループ

(3) 化学・食品関係人材育成事業

分野	名称	内容	担当課・グループ
37	化学	次世代を担う人材のための化学イベント	化学について関心を深めるワークショップを行います。
38	食品	食品品質向上セミナー	食品を調理、加工、商品化、または、販売する際に、役立つ技術や知識を学びます。

令和7年度人材育成研修・セミナー開催スケジュール

分野	名 称	回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	担当
ひと づくり	織物基礎 【対面方式】	5回		●	●										技術支援課 織 物 グループ
	織物基礎 【オンライン方式】	3回			●										
	製織準備 【整経】	4回								●					
	製織準備 【たて継ぎ（手つなぎ）】	2回			●										
	製織準備 【たて継ぎ（機械つなぎ）】	1回							●						
	製織 【基礎】	24回		●	●	●	●	●							
	製織 【応用】	8回							●	●					
	織物組織と紋織技術	10回				●	●	●							
	織機調整 【シャトル基礎】	10回						●	●						
	織機調整 【レピア基礎】	3回							●						
	現場実践研修	随時	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
	現地セミナー	1回						●							
もの づくり	新商品開発 【AI とデジタル検染】	6回			●	●									技術支援課 機械金属 グループ
	新商品開発 【縫製】	15回				●	●	●							
	新商品開発 【ものづくり&機器活用】	随時	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
設計 技術	機械製図基礎講座 (LEVEL 00)	2回	●												
	機械製図講習会 (LEVEL 0→1)	2回		●											
	機械製図講習会 (LEVEL 2)	2回			●										
	3次元CAD基礎	2回		●											
	3次元CAM基礎	2回		●											
機械 加工	NCプログラム基礎	2回	●												
	NC旋盤基礎	3回	●												
	NC旋盤講習会（基礎、実習）	4回						●							
	NCフライス基礎	3回	●												
	3軸マシニングセンタ講習会 (基礎、実習)	4回					●								
技術セ ミナー	安全衛生	1回	●												技術支援課 機械金属 グループ
	VRを活用した危険体験学習	1回	●												
	金属材料基礎	1回	●												
	新分野進出支援技術 セミナー I	2回				●									

30		新分野進出支援技術 セミナー II	1回								●					
31	IT・IoT 技術	I o T技術基礎	1回	●												
32		Excel マクロ・VBA活用 セミナー (入門)	2回								●					
33		Excel マクロ・VBA活用 セミナー (応用)	2回								●					
34	計測技 術	測定工具基礎講座	1回	●												
35		表面粗さ・輪郭形状測定機 講習会 (座学・実習)	1回				●									
36		CNC三次元測定機講習会 (座学・実習)	3回					●								
37	化学	次世代を担う人材のための化学 イベント	1回					●								企画連携課 連携支援 グループ
38	食品	食品品質向上セミナー	1回						●							

3 技術開発の促進

(1) 新技術の研究開発

繊維製品の総合産地を目指して新しい展開を図るために必要な、①新規・新用途織物の試作開発、②新技術の研究開発、③製品の品質向上に関する研究、④生産加工工程の合理化研究、⑤新しい加工技術等の研究開発、⑥先端技術を応用した産地技術の高度化のための研究を行う。

また、機械加工や金属加工関連企業が抱える技術的課題等をテーマに研究し、京都府北部地域の機械金属業界の技術力向上を図る。

さらに、地域の食品企業の事業振興や、地域に根差した資源を利用する企業の製品開発を支援するための研究も実施する。

なお、これらについては研究開発に係る外部評価制度を通して、企業ニーズ、地域ニーズに即応した課題解決型の研究開発を目指す。

(2) 研究開発企業や大学との共同研究

研究開発意欲の高い企業や大学との共同研究や各種助成制度、顕彰制度を通じて新技術等の研究開発に取り組む企業を支援する。

【事業詳細】

☞ 令和7年度新技術研究開発所内研究・共同研究一覧（12 ページ）

令和7年度新技術研究開発所内研究・共同研究

(1) 所内研究

	研究テーマ	概 要	担当課・グループ
1	昭和45年から保存される織物分解成績書のデジタルアーカイブ	当センターに昭和45年から保存される織物分解成績書について、AIやOCR等の技術により人が書いた字をデジタル化し、織物設計の変遷や代表的な設計を抽出する。	技術支援課 織物グループ
2	空気の流れを検知する丹後ちりめんの実用化に向けた取組	令和5年10月に京都府が特許を取得した「空気の流れ検知装置ならびにそれを用いた映像・音響システム」について、丹後ちりめんでしか実現しない表現方法を開発する。また、商空間の演出や建材に関する展示会である「BAMBOO EXPO」に出展し、実用化する事業者を開拓する。	技術支援課 織物グループ
3	画像生成AIを用いた織物図案の実用性の検証	画像生成AIを活用して意匠図を作成し、紋織物の試作を行う。著作権及び肖像権の知的財産権をクリアし、柄クセ、リピート性、審美性など実用性を備えた図案を作成するためプロンプトの妥当性や、図案の再編集方法について研究する。	技術支援課 織物グループ
4	IoTによる屋内測位に関する研究Ⅱ	市販センサー等を用いた安価なIoT屋内測位システムを試作し、今後人手不足が見込まれる地域企業の課題解決に貢献することを目的とする。	技術支援課 機械金属グループ
5	IoTによる難削切削材加工データ収集に関する研究	IoTを用いた安価な難削材切削加工の加工データ収集システムを構築し、新分野進出支援に貢献することを目的とする。	技術支援課 機械金属グループ
6	食品の保存に関する技術	外部刺激と食品の色などの関係について研究し、外部刺激による生鮮又は加工された食品の色などに対する影響を明らかにする。	企画連携課 連携支援グループ
7	シルクパウダーを用いた機能性材料に関する技術	シルクパウダーを用いた材料の機能について研究することによって、農業や工業で使用する資材への利用方法を検討する。	企画連携課 連携支援グループ

(2) 共同研究

	研究テーマ	概 要	担当課・グループ
1	京都府織物・機械金属振興センターが保存する織物分解成績書のデジタル化	当センターが昭和45年から約31,000点の織物分解成績書について、手描きの繊維の種類、糸の太さ、練数及び構成、織り密度等の情報をデジタル化するため、「Artificial Intelligence Technology」を活用したデジタル化システムを構築する。	技術支援課 織物グループ
2	海外インテリア市場へ向けた原始布「丹後藤布」の新素材開発	海外インテリア市場に向け、希少な「藤糸」の使用量を減らすため、絹やナイロン、リネン糸と組み合わせた新たな藤布を開発し、海外インテリア市場に対応できる風合いと耐久性を持った新素材を開発する。	技術支援課 織物グループ

4 情報収集と情報発信（広報活動の強化）

(1) 地域及び企業の情報収集と情報提供

(公財)京都産業 21 北部支援センターと連携して企業訪問を積極的に行い、丹後・中丹地域の企業の情報を収集し、課題等のヒアリングを行うとともに、丹後・知恵のものづくりパーク及び当センターの事業の PR を行う。

(2) デザイン情報の提供

紋織・染色図案、ファッション情報等を収集・整備し閲覧に供し、新商品開発等を推進する。

(3) 研究成果の資料配布・情報発信

研究成果報告書を作成し、関係機関や業界に配布するとともに、ホームページ等を活用して成果を発信する。

(4) SNS、メールマガジン及びホームページ等での情報発信

Facebook、Instagram、YouTube、メールマガジン及びホームページ等を活用し、講習会・セミナーの募集案内及び各種支援制度並びに丹後管内の地域及び技術に係る情報等について発信する。

(5) 情報や資料の収集

(公財)京都産業 21 北部支援センターと連携して、丹後織物産地や京都府北部地域の機械金属業界の業況など幅広い情報や資料を収集する。

(6) メディアへの情報提供

メディアへの情報提供を積極的に行い、月 1 回の新聞連載を筆頭に、研究成果、事業及び研修等の情報についてメディアと連携しながら情報を発信する。

5 産地組合、教育機関、団体との連携、支援等

(1) 丹後織物工業組合との連携、支援

丹後織物工業組合が取り組む丹後織物求評会、TANGO OPEN CENTER、その他の販路拡大の取組を支援する。また、加工場の技術課題を整理し改善を目指すため、組合職員との勉強会を実施する。

(2) 丹後機械工業協同組合との連携、支援

丹後機械工業協同組合が取り組む販路開拓事業や新たな産業分野への展開に向けた開発等を支援するとともに、構成企業の人材育成や技術力向上支援及び人材確保対策事業を連携して推進する。

(3) 産学公の連携

大学の課題解決プログラム及び学生インターンシップ受入に協力して、地域のものづくり企業や大学との連携を強化するとともに、技術者の育成や技術人材の確保に取り組む。

(4) 公設試験研究機関との広域連携支援

中小企業技術センターや京都市産業技術研究所との広域連携による支援体制の強化を図り、京都市産業技術研究所と共同で産地課題の解決に取り組む「織物未来共創 Lab」等広域連携による技術支援を推進する。

(5) 市町、商工会等との連携、支援

地元の市町、各種団体等が取り組むものづくり産業の振興事業等を支援する。

(6) 関係団体との連携、支援

- 丹後テキスタイル・テクノとの連携、支援
- 丹織技術研究会との連携、支援
- 機料品調達連絡協議会との連携、支援
- 丹後ものづくり産業共創プロジェクト（T・MIC）との連携、支援
- 丹後機械金属業振興推進チームとの連携、支援
- 宇宙ビジネス参入研究会との連携、支援
- 丹後地域加工食品品質向上連絡会との連携、支援
- 丹後ええもん工房との連携、支援

【事業詳細】

📄 令和7年度研究会・協議会・プロジェクト・団体一覧（15 ページ）

令和7年度研究会・協議会・プロジェクト・団体一覧

名 称		内 容	担当課・グループ
1	丹後テキスタイル・テクノ	丹後産地の織機調整技能士で構成する研究会（丹後テキスタイル・テクノ）と連携して、若手従事者への織機調整技術の継承に積極的に取り組む。また、丹後織物産地のみならず、他産地からの研修要望にも応える。	技術支援課 織物グループ
2	丹織技術研究会	丹後産地の織物業者等で組織する丹織技術研究会と連携して新商品開発につなげる生地蒐集見本帳の作成及び若手後継者育成を目的とした丹後織物技術アーカイブ化等、産地生産基盤支援に関する事業を積極的に取り組む。	技術支援課 織物グループ
3	機料品調達連絡協議会	機料品店、組合等で組織する協議会において、将来枯渇が危惧される機料品の安定供給に向けた取組の方策について協議し、安定供給の仕組みを実現させる。	技術支援課 織物グループ
4	丹後ものづくり産業共創プロジェクト（T・MIC）	地域の基幹産業である織物業と機械金属業が連携する取組の一環として、宇宙環境で着用するインナー等を取り扱う企業に、丹後の絹織物のPRを継続する。	技術支援課 織物グループ 機械金属グループ
5	丹後機械金属業振興推進チーム	丹後地域の基幹産業である機械金属業の継続的な発展のため、新分野への進出・販路開拓等の検討を目的に令和5年2月に発足。オープンファクトリー等への参画と新分野（宇宙分野等）への進出にあたり、必要となる技能や知識の習得に向けたセミナーや企業に向けた技術情報の提供、相互の情報交換等を目的とする研究会の設置を行う。	技術支援課 機械金属グループ
6	宇宙ビジネス参入研究会	丹後地域の中小機械金属業を中心に宇宙分野への進出を目的として令和6年10月に発足。当センターを事務局として、宇宙分野で使用される材料に関する加工技術の学習、先進企業や展示会への視察活動、宇宙分野の情報共有等の活動を行い、進出に向けた受注実績の獲得を目指している。	技術支援課 機械金属グループ
7	丹後地域加工食品品質向上連絡会	丹後地域の加工食品製造者の商品開発、加工技術向上及び販路開拓の支援を促進する丹後地域加工食品品質向上連絡会の構成員となって、同連絡会の活動に参加する。	企画連携課 連携支援グループ
8	丹後ええもん工房	丹後ええもん工房に参画している織物、工芸、食品等の事業者が、異業種連携をして、体験・見学できる工房のさらなる魅力づくりをすることで、丹後地域の多彩なものづくりの推進や情報発信等を行うことを支援する。	企画連携課 企画総務グループ 連携支援グループ

6 丹後・知恵のものづくりパークによる経営・技術の総合支援

「丹後・知恵のものづくりパーク」が京都府北部地域のものづくり人材の育成や新たな産業振興、中小企業の総合支援を行う拠点であることを踏まえ、(公財)京都産業 21 北部支援センターと一体となり、企業ニーズに即した経営・技術両面でのサポート機能による企業訪問や、人材育成、企業との試作開発、機器貸付、依頼試験等の事業推進を通して、京都府北部地域のものづくり産業の総合的な活性化を図る。

7 創立120周年記念事業の実施

令和7年度は創立120周年の節目にあたり、これまでの歩みを振り返り、未来への展望を示すため、「創立120周年記念事業」に取り組む。

- (1) 創立120周年記念シンポジウムの開催**
- (2) 未来へ産業と技術をつなぐ「子ども体験教室」の実施**
- (3) 「120年の歩み～オリモノ・キカイキンゾク・ショク カガク展～（仮称）」の設置**

沿 革

明治 38 年 9 月	「京都府織物試験場」の設置が決定
明治 39 年 2 月	中郡吉原村（現 京丹後市）に「京都府織物試験場」を開設、業務開始
昭和 2 年 3 月	奥丹後大震災により建物全壊
昭和 3 年 8 月	建物及び諸機械・設備の復興が完了、業務再開
昭和 31 年 10 月	与謝郡野田川町（現 与謝野町）に技術員駐在所を設置
昭和 40 年 11 月	創立 60 周年記念事業実施
昭和 41 年 6 月	組織変更（振興課、技術課に加え経営指導課を設置、総合指導機関に再編）
昭和 43 年 7 月	中郡峰山町丹波（現 京丹後市）に改築移転
	組織変更（技術課（技術指導係、試験研究係）、経営課（総務係、経営指導係）の 2 課 4 係制に再編）
昭和 43 年 9 月	皇太子同妃殿下（現上皇 上皇后両陛下）が当場を御視察
昭和 44 年 12 月	「丹後機業振興対策 5 カ年計画」を策定
昭和 45 年 8 月	組織変更（丹後機業振興対策室を設置、1 室 2 課 4 係制に再編）
昭和 47 年 6 月	名称を「京都府織物指導所」に変更、染色棟を竣工
	組織変更（技術課の 2 係制を廃止、主任研究員制に再編）
	技術員駐在所を廃止、加悦谷分室を設置
昭和 50 年 6 月	組織変更（丹後機業振興対策室を廃止、2 課 1 分室制に再編）
昭和 50 年 11 月	創立 70 周年記念事業実施
昭和 52 年 11 月	与謝郡加悦町算所（現 与謝野町）に加悦谷分室を改築移転
昭和 60 年 10 月	創立 80 周年記念事業実施
平成 4 年 8 月	加悦谷分室 20 周年記念事業実施
平成 7 年 8 月	創立 90 周年記念事業実施
平成 12 年 3 月	機械金属試験室を増築
平成 12 年 4 月	名称を「京都府織物・機械金属振興センター」に変更
	組織変更（機械金属課を設置、経営課、織物課、加悦谷分室の 3 課 1 分室制に再編）
平成 17 年 4 月	組織変更（加悦谷分室を本所に統合、経営室、織物室、機械金属室の 3 室制に再編）
平成 17 年 11 月	創立 100 周年記念事業実施
平成 20 年 4 月	組織変更（経営支援業務を（公財）京都産業 21 北部支援センターに移管、企画連携課、技術支援課の 2 課制に再編）
平成 20 年 9 月	京丹後市峰山町荒山（丹後・知恵のものづくりパーク）に移転
平成 20 年 10 月	丹後・知恵のものづくりパークオープニング式典開催
平成 27 年 6 月	創立 110 周年記念事業実施
平成 31 年 3 月	丹後・知恵のものづくりパーク機能強化（人材育成・新産業創出）整備実施
令和 7 年 10 月	創立 120 周年記念事業実施予定

所在地及び施設等の概要

所在地	京都府京丹後市峰山町荒山 225 番地 (丹後・知恵のものづくりパーク内)
建物	4,183.51 m ² (延床面積)
(A 棟)	1,322.03 m ²
(B 棟)	2,582.65 m ²
(附属建物)	278.83 m ² (物置・倉庫・車庫等)
設備・機器	約 100 機種 (100 万円以上の機器) ※ (公財)京都産業 21 から A 棟・B 棟の一部を事務所として使用貸借

丹後・知恵のものづくりパークの概要

土地	35,466.22 m ² (敷地面積)
建物	10,933.51 m ² (延床面積) (A 棟、B 棟、C 棟、D 棟、E 棟、附属建物ほか)
施設目的	京都府北部地域のものづくり人材の育成や新たな産業興しと中小企業の総合支援を行うための拠点施設
ゾーニング	①トレーニングゾーン (基礎から応用に至る人材育成のための研修スペース : B 棟 1 階、C 棟) ②トライアルゾーン (地元企業が新分野に進出するための事業活動スペース : C 棟、D 棟、E 棟) ③サポートゾーン (経営・技術一体の総合支援のためのスペース : A 棟、B 棟 1 階) ④コラボレーションゾーン (人材育成、新産業創出のための研修、交流スペース : B 棟 2 階)
施設整備	京都府・京丹後市・(公財)京都産業 21 が日本電産(株)(現ニデック(株))旧峰山工場を活用し、共同で整備(平成 20 年 10 月 23 日グランドオープン)
施設運営	(公財)京都産業 21 が日本電産(株)(現ニデック(株))から賃借し、施設全体を管理・運営

令和7年度事業計画書

令和7年7月

京都府織物・機械金属振興センター

〒627-0004 京都府京丹後市峰山町荒山 225 番地
(丹後・知恵のものづくりパーク)

TEL 0772-62-7400

FAX 0772-62-5240